

JEACS 福音讃美歌 ジャーナル

2018.5 vol.25

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing

第一回 福音讃美歌協会・讃美歌作家懇談会レポート

3月9日（金）午後6時半～8時半

OCC 612号室

3月9日の夕刻、御茶ノ水クリスチャンセンターの6階にある会議室に、讃美歌の創作に携わる者たちが集まりました。この日、行われたのは、福音讃美歌協会の呼びかけによる第一回「福音讃美歌協会・讃美歌作家懇談会」です。今回、集まっていたいたのは『あたらしい歌2』に作品を提供してくださった方々を中心に、いずれも讃美歌創作に深く関わる方たちでした。同じ重荷を持つ者どうし、旧知の者たちは、親しげな挨拶からすぐに自由な談笑に移り、名前は知っていても初対面の人たちは、フォーマルな挨拶や名刺交換から入りながら、共通の話題や知人が見つかる一気に距離が縮まります。

日本の教会では、讃美歌の創作に携われる機会は決して多いとは言えません。創作に携わる者たちの出会いや交わりも未だ希薄で、各自の持っている知識や経験も、個人や教会の枠内にとどまりがちです。それらを互いにシェアし合い、励まし合うことができれば、各自の創作意欲を大いに刺激し、創作活動を実り豊かなものにするでしょう。また、新しい出会いから、新しいコラボレーションが生まれ、讃美歌創作の可能性が大きく広がることも期待できます。さらに世代から世代へと、様々な経験やノウハウを継承することもできるでしょう。

いろいろな思いや期待をもって始められた讃美歌作家懇談会ですが、まずは、顔と顔を合わせて出会い、ことばを交わして、交わりを深めることに主眼が置かれました。

CONTENTS

Page

・第一回・讃美歌作家懇談会レポート	1
・編集作業の道のり 第10回 土井康司	4
・本とCD「みことばのうた（付CD）」	5
・INFORMATION オーディオ・コンサート他	6

■当日プログラム

懇談会は、祈りと『あたらしい歌2』から「わがたまよ、主をたたえよ」(10番、遠藤稔作曲)の讃美で始まりました。オリエンテーションでは、細かなテーマは定めず、「会衆讃美に関わること」という枠のみが提示され、自由に語り合っていただくことにしました。また、参加者がフラットな立場で語り合えるように、懇談会中の敬称は「さん」にそろえました。

各テーブルでの話し合いは記録が取られ、全体の中でシェアされました。また、テーブルが違うために交わりの機会が失われることのないように、テーブルを越えた交わりの時をもちました。

オープニング	18:30～18:50	
・初めの祈り、讃美、オリエンテーション		
メインセッション	18:50～20:10	
・コイノニア1 (テーブル毎の交わり)		50分
・各テーブルの紹介		15分
・コイノニア2 (テーブルを越えた交わり)		15分
クロージング	20:10～20:30	
・インフォメーション、アンケート、感謝の祈り、讃美		

■参加者とテーブル分け(コイノニア1)

今回は、日程が合わず今回は参加を見送られた方、直前に体調を崩され欠席された方もおりましたが、福音讃美歌協会の讃美歌委員4名を含む15名の方が参加し、それぞれ有意義な時間を過ごされました。

テーブル1	植木紀夫*、井上義*、東海林隆之、林直也、渡辺晃子
テーブル2	土井康司*、天海和彦、荒瀬牧彦、大和田広美、勝沼歩実
テーブル3	中山信児*、植木愛、塩谷達也、武義和、渡辺真理

(左端がテーブルマスター。*はJEACS讃美歌委員。)

当日は、様々な立場、世代から参加がありました。それぞれの讃美歌に関わる奉仕の分野は以下の通りです。複数の分野で奉仕している方も多くあり、この分野で奉仕する者たちの活動範囲の広がりが伺えました。

A. 作詞、翻訳	6人	B. 作曲、編曲	8人	C. 演奏	7人
D. 歌集の編集	3人	E. 研究調査	4人		

■アンケート集計 参加者15名(讃美歌委員4名含む)+付添1名

懇談会の最後にアンケートを記入していただきましたが、全体として、同じ重荷を持つ者どうしの交わりや、普段得がたい意見交換、情報交換を感謝する声が多く聞かれ、新たな創作へのモチベーションを得た方もおられました。この懇談会を通して初めて出会うことのできた方たちもおり、交わりの広がりという面でも有意義な会となりました。

■懇談会のこれから

今後もこの方向で回を重ねるのが良いという意見も多かった反面、より実質のある会になること期待する声も寄せられました。具体的には、実際に各自が作った讃美歌を検討するワークショップや、曲づくりのノウハウを学んだり、創作活動・演奏活動に役立つ情報を積極的に分かち合える場になることを期待する意見が寄せられました。

懇談会の回数について意見を聞いたところ、年2回を希望する声が多かったので、今年度は秋と年明けの2回開催することにいたしました。秋の回については实际的、実践的な内容を検討し、年明けの回については、今回と同じく交わり重視の回として備える予定です。

■参加者の意識

参加者の多くは、新しい時代の必要を見据えつつ、会衆讃美が豊かになるために教会に仕えたいという意識で奉仕をしています。その中で、新しい讃美歌を広く知って欲しいという願いや、新たな働きを求める積極的な求めも見られました。海外の讃美歌作家から「日本語で賛美を作るように」と勧められ、牧師が詩を書く使命を感じている方が一方、讃美歌奉仕者として求められているものの、教会にその奉仕を受けとめる基盤がないという現実直面している方もありました。主に仕える喜びの中にも、多くの課題があることを改めて示された時でもありました。

今後も、讃美歌作家と教会、讃美歌作家と会衆、讃美歌作家と音楽奉仕者を繋げていく働きの重要性がなくなることはないでしょう。それはクリスチャン・メディアや福音賛美歌協会に求められている使命の一つでもあります。

今後も、讃美歌作家と教会、讃美歌作家と会衆、讃美歌作家と音楽奉仕者を繋げていく働きの重要性がなくなることはないでしょう。それはクリスチャン・メディアや福音賛美歌協会に求められている使命の一つでもあります。



『教会福音讃美歌』編集作業の道のり 連載第 10 回

福音讃美歌協会 讃美歌委員 土井康司

前回までで、福音讃美歌協会設立の準備から『教会福音讃美歌』発行までの道のりと、編集作業における歌詞の扱いについて紹介してまいりました。今回は音楽面の作業についてふたいたと思います。具体的には、採用候補曲の音楽面の評価、新曲の作曲、採用曲の編曲の確定、コードネーム付け、楽譜の作成についてご紹介します。

◆採用候補曲の音楽面の評価

『教会福音讃美歌』の編集が選曲の段階に入ると、候補曲の音楽面からの評価が必要となりました。効率的に作業するため、讃美歌委員のうち音楽を専門とする者たちが中心となって「音楽チーム」を結成し、この課題に取り組むことになりました。2011年のことです。音楽チームのメンバーは、各自が候補曲について評価し、それを持ち寄って検討し、その結果を讃美歌委員会に報告しました。たとえばメンバーのひとりが、会衆讃美としては高すぎる音が含まれると思った曲について「〇調に下げるとよいのでは」と提案すると、他のメンバーはそれにつ

いて賛否をのべ、場合によっては議論し、結論を讃美歌委員会に報告するといった具合です。また曲数を絞る必要があったため、音楽面から優先順位を付けて報告しました。それは讃美歌委員会での選曲の参考とされました。

◆新曲の作曲

『教会福音讃美歌』に掲載したいテーマについて、既成の曲にふさわしいものが見つからないことがありました。そこで讃美歌委員会では必要なテーマに沿った歌詞を準備し、音楽チームに創作を依頼しました。献児式・祝福式（285 番）、母の日・父の日（286 番）、敬老の日・高齢者祝福式（287 番）のための曲などは、そのようにして作られました。これらは歌詞に曲を付けてすぐ完成となったわけではありません。曲が付いたらその旋律に合わせて歌詞を修正し、その修正に合わせて曲を修正し……といったやりとりを重ね、その都度、讃美歌委員会でもチェックしながら作り上げられました。会衆讃美における必要と不足を見極め、作詞と作曲を依頼し、編集者が吟味するという流れを作れたのは、多くの者が関わりつつ主体がはっきりしている讃美歌編集の体制が用いられた一例だと思います。

◆採用曲の編曲の確定

旋律だけでは伴奏するのが難しいので、和音も含めて楽譜にしたもの（編曲譜）を掲載するのが讃美歌集では一般的です。そこで採用が決まった曲について、どのような編曲で掲載するかを検討しました。国内外の主要な讃美歌集や原曲の楽譜を調査し、良い編曲があればそれを採用しました。しかし著作権の関係で使用できないものや、そもそも会衆讃美に使用できる編曲が無いものもあり、その場合は音楽チームが中心となって編曲をしました。

◆コードネーム付け

コードネームを付けてほしいとの要望があり、できる限りの曲に付けることになりました。作業量が多いため、音楽チーム以外の協力者にも依頼しました。コードネームは、編曲譜の和音をそのまま記せばいいというものではありません。頻繁に和音が変わる編曲の場合、その通りに付けると演奏が困難になるため、主要な和音以外は省く必要があります。結果的に編曲譜とコードネームとが一致しない部分が生じますので、複数の楽器で演奏する場合は注意が必要です。なお楽譜通りの伴奏が推奨される曲や、著作権の権利者の許しを得られなかった曲にはコードネームは付けてありません。

◆楽譜の作成

できるだけ見やすい楽譜を作成することも大きな課題でした。これには「出版推進連絡会」が取り組みました。この連絡会は、出版までのスケジュールを作成し進めていく目的で、福音讃美歌協会理事、讃美歌委員、出版社、それぞれの代表がメンバーとなって 2012 年に結成されました。書籍の体裁を決める責任も負っていたため、楽譜についても音符や文字の大きさ・書体、五線の幅や線の太さ、余白の取り方など、細かい所まで検討しました。最初から小型版（B6 判）の出版を想定し、小さくても読みやすい楽譜になるよう配慮しました。

以上、音楽面の作業を抜き出してご紹介しました。実際は、歌詞関係と密接に関わっているため、いずれも讃美歌委員会で総合的に扱われました。

本&CD 紹介

『みことばのうた (付CD)』 岳藤豪希編著

発行「みことばのうた」再版委員会（稲垣博史、飯島千雍子、齊藤廣行、齊藤文子、藤井斉）
発売 一般社団法人 聖書同盟 定価 2300 円（税込）

本作は、1983 年に出版された『みことばのうた 1』と、1984 年に出版された『みことばのうた 2』の合本に、新たに録音された CD を付したものです。『みことばのうた』の歌詞は、すべて『新改訳聖書』から採られており、聖書の「みことば」そのものに曲が付けられています。多くは 1～2 節のみことばを歌詞としていますが、「山上の教え」（21）は例外的にマタイの福音書 5 章 3～10 節に曲が付けられています。

岳藤豪希編著『みことばのうた』の特徴は、徹底したみことば中心主義にあります。音楽をみことばに従属させる姿勢は、リズムや旋律にはっきりと現れており、例えば日本語に訳された聖書のことばのリズムを生かすために、変拍子がよく用いられます。そのため、器楽的に演奏しようとするともまどうような旋律も、ことばをあてはめてみると、実に歌いやすく、理解しやすいのが特徴です。それは、旋律が日本語の意味、構造、イントネーションに沿って作られているからで、歌うことで、みことばの記憶と理解を助けるようにできています。

ところで、本作が歌詞としている『新改訳聖書』は、1965 年に新約、1970 年に旧約の翻訳が完成し、1978 年に改訂第二版が、2003 年には改訂第三版が発行され、その都度、訳文に小さな変更が施されてきました。そして昨年 2017 年に発行された『聖書新改訳 2017』では、より本格的な改訂作業が行われ、訳文に大きな変更がありました。みことばそのものを歌う「みことばのうた」の強みは、音楽がことばに忠実であるということにあります。しかし、音楽がことばに忠実であればあるほど、聖書の訳文が変わることで用いられにくくなるという現実があります。そのような意味でも、この時期に再版が発行されたことは大変意義のあることと言えるべきでしょう。

編著者による「まえがき」には「教会学校などで聖句の暗唱のためにももちいられることを私どもは願っています。特に若い人々の歌集として使用していただければ幸いです」とあります。このような「みことばのうた」の必要性は、聖書の翻訳がどれほど変わっても無くなることはないでしょうし、これからも新しい翻訳聖書に準拠した、新しい「みことばのうた」が産み出されることでしょう。これから「みことばのうた」の作曲を志す方は、本作から、作曲の技巧のみならず、みことばに向き合う姿勢も含め、多くのことを学ぶことができるでしょう。

CD には全 43 曲が聖書朗読とともに収められています。どの曲もアカペラで歌われていますが、いずれも素直で心のこもった、好感の持てる歌唱です。録音は都内の教会で行われています。音響の良い会堂であることに加え、エンジニアの優れた技術によって、豊かな響きを湛えつつも、一語一語の発音が非常にクリアに収録されており、大変聴きやすく、芸術性の高い作品となっています。



朗読 森下信義

うた 森下優仕、中村愛希子、齊藤廣行、他

エンジニア：Toshiyuki Nagaya

ディレクター：Chigako Iijima

録音：東京聖書教会 2017/7～8 月



INFORMATION

♪ オーディオ・コンサート

2018 年 7 月 6 日（金） 19:00 ～ 20:30

オーディオ・コンサートでは、讃美歌の解説を聞き、作詞家と作曲家が言葉と楽曲で紡ぎ出す讃美の世界観を知ります。歌詞を目で追いながら、音楽の賜物を存分に用いてささげられる讃美の歌に聴き入ることは、讃美歌が深く心に沁み入ってくるような新しい経験です。多くの方のご来場を心よりお待ちしております。

- 場所 いのちのことば社 本社 2F チャペル（東京都中野区中野 2-1-5、中野駅から徒歩 8 分）
- 入場無料（自由献金あり）
- 主催 福音讃美歌協会

♪ 東京基督教大学 教会音楽・神学公開講座 第 4 回「讃美歌と讃美歌集の創作現場から」

2018 年 10 月 29 日（月） 13:10 ～ 15:10

- 講 師：中山信児（JEACS 副理事長、讃美歌委員、著作権委員長、讃美歌作詞家）
- 受講料：2,000 円
- 場 所：東京基督教大学チャペル
（千葉ニュータウン中央駅から千葉レインボーバス「高花」行きバス「電話局」下車。バス停より徒歩 10 分。）

多くの人に愛聴され、歌い継がれている讃美歌。それらは、誰が、何のために、作ったのでしょうか。讃美歌創作の背後にはさまざまなストーリーがあり、それは信仰者の思いが神に至る道筋でもあります。また、多くの讃美歌は讃美歌集に収録されて、礼拝や諸集会で用いられます。それは個々の讃美歌が公同のものになる過程でもあります。

歴史を振り返りながら、現代日本の讃美歌創作の現場と讃美歌集編集の現場を、そこにある思い、課題、感謝とともにご紹介します。

中山信児

ーごあいさつー

今年度も公開講座を開催できますことを心から感謝申し上げます。今回、今まで以上に大勢の方々にご参加頂けるように受講料を見直しました。もちろん学びの質の高さは変わりません。どうぞお誘いあわせの上、ご参加下さいませようご案内申し上げます。印西の地で皆様にお目に書かれますことを楽しみにしております。

東京基督教大学・教会音楽主任 宇内千晴

◆お申し込み・お問合せ先

東京基督教大学 教会音楽アカデミー（<http://www.tci.ac.jp>） 千葉県印西市内野 3-301-5
TEL：0476-46-1131 FAX：0476-46-1405 E-mail：music@tci.ac.jp

◆申込方法お電話、FAX、E メールいずれかでお申し込みください（学園 HP から可）

- ①氏名（ふりがな） ②住所 ③電話番号（FAX がある場合は FAX 番号もお書きください）
- ④講義タイトル ⑤申込締切は、開講日の一週間前。

＊会計報告＊

■収入の部■

2017 年 4 月～2018 年 3 月

科 目	2017 年度予算	2017 年度実績
会員負担金	1,210,000	1,087,000
（正会員）	(750,000)	(750,000)
（準会員）	(60,000)	(0)
（賛助会員）	(400,000)	(337,000)
自由献金	600,000	589,820
その他	0	4
当年度収入合計（A）	1,810,000	1,755,999
前年度繰越金	486,145	486,145
収入合計（B）	2,296,145	2,242,144

■支出の部■

科 目	2017 年度予算	2017 年度実績
理事会費	95,000	59,486
委員会費	300,000	227,130
人件費	390,000	360,000
事務費	205,000	405,013
ジャーナル発行費	400,000	365,442
カンファレンス開催費	165,000	51,322
総会開催費	20,000	5,520
JEA 関係費	63,000	82,846
経常支出合計	1,638,000	1,556,759
特別支出 積立金	100,000	100,000
積立金取り崩し支出	0	68,400
予備費	350,000	0
当年度支出合計（C）	2,088,000	1725,159
当年度収支差額（A） - （C）	－ 278,000	30,840
繰越額／残高（B） - （C）	208,145	516,985

■賛助会費納入者・献金者一覧（2017 年 4 月～2018 年 3 月）

日本福音キリスト教会連合、武蔵台キリスト福音教会、恵泉キリスト教会小美玉チャペル、泉キリスト教会、前橋キリスト教会、馬天キリスト教会、立川キリスト教会、都賀キリスト教会、千歳烏山光の子聖書教会、横須賀中央教会、下北沢聖書教会、菅生キリスト教会、結城福音キリスト教会、キリスト教朝顔教会、板橋キリスト教会、聖宣神学院教会（16 件）

稲垣博史・緋紗子、福田崇・愛子、林慎一郎・頼子、大賀勝範、菅原早樹、齋藤眞木子、篠田安子、横倉知恵、南場安正、安西仁美、安藤能成、熊谷邦男、山村雅彦、西川晴子、本間昭弘、小川宣嗣、寺村秀嗣、三森美智代、聖宣神学院キリスト教会婦人会、匿名（個人、その他 20 件）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

あなたの教会で「オーディオ・コンサート」を開いてみませんか

福音讃美歌協会では、CD『教会福音讃美歌』全5巻の完成を記念して、いのちのことば社と共催で「オーディオ・コンサート」を企画いたしました。「オーディオ・コンサート」は、教会を会場として、講師の解説によって讃美歌に対する理解を深めながら、CDに収録された讃美歌をオーディオで鑑賞する集会です。

■「オーディオ・コンサート」概要

1. オーディオ機器は、福音讃美歌協会でご用意したものをご利用いただくことができます。
貸出費用（送料含む）は無料です。（下記「使用オーディオ機器」参照）
2. 実際にCD制作に関わった者が、教会のご希望をお聞きしながらCD収録曲から選曲し、当日会場に伺って解説をいたします（要日程調整）。
3. 講師謝礼（関東圏の場合交通費も）は不要です（関東以遠の場合は応相談）。
4. 会場では、1枚2,700円（税込）のCD『教会福音讃美歌』1～5巻を、1枚2,500円（税込）で販売することができます。
5. 福音讃美歌協会の働きのために自由献金の機会をいただければ感謝です。

■使用オーディオ機器（プロケーブル社）

- スピーカー BIC DV62si（16.5cm ウーファー 2way 能率:90db アメリカ）
- パワーアンプ thomann S-75mk2（AB級アンプ 45ワット×2 ドイツ）
- 音源用ケーブル Neumann（ドイツ）



■お問い合わせ：下記、福音讃美歌協会（JEACS）まで。



■福音讃美歌協会◆会員募集◆

- ◇会員には次の三つの種別があります。正会員（教会、教団・教派等）、準会員（超教派団体、グループ等）
賛助会員（趣旨に賛同し支援して下さる教会、個人等）
- ◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵便またはFAXでお送りください。承認の後、年会費のお振込みにより入会が完了いたします。
- ◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

福音讃美歌協会（JEACS） 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921（いのちのことば社出版事業部内）
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座◆

番号 10500-82654721
名称 福音讃美歌協会

◆みずほ銀行 ユーカリが丘支店◆

普通預金 番号 1604668
名称 福音讃美歌協会

From Editor

作業が期待されます。
巻頭の写真は、盛岡聖書パブレス
ト教会の近藤愛哉牧師が撮影
された、岩手県遠野市の
「藤沢の滝」です。
快諾、ありがとうございます。
いよいよです。
(な)

第一回・讃美歌作家懇談会に集った15名の顔ぶれを見ると、なかなか興味深い構成になりました。まず性別ですが、女性が4名、男性11名でした。現状では福音讃美歌協会の理事も全員が男性です。この領域で女性が奉仕しやすい環境を整えることは急務であると感じました。教派で見ると、全員プロテスタントですが7教団から5名の牧師と10名の信徒が集いました。牧師は全員が作詞あるいは訳詞の経験がありました。讃美の詞の特殊性から言って、これは必要なことではありますが、聖書や神学を学んで讃美歌創作に取り組む信徒がさらに起こされることを願わされました。参加者のうち、大学や神学校で教鞭を執るものは5名、大学生2名、新卒1名でした。いずれも音楽を学んでいる3名の若者の参加は大変喜ばしいものです。反面、聖書や神学を学ぶ者たちの中で讃美歌創作に重荷を持つ者が希である現実も浮き彫りになりました。教会や神学校は、この課題に真剣に向き合う必要があるでしょう。最後に、教会の内外で演奏家としても奉仕している者は6名でした。会衆が初めて新しい讃美歌に触れる機会としては、楽譜よりCDや映像、演奏会などの方がやさしいでしょう。作家と演奏家の共同